

犬養健 いぬがさ たけむら 小説家、政治家。明治二十九年七月二十八日東京生れ、
昭和二十五年八月二十八日歿（六六上九六）。號乾堂。政治家犬養毅 いぬがさ たけむら
の次男。東京帝國大學中退。へ白樺派への作家として出役。昭和四年
雜誌『文學』創刊同人も、翌年衆議院議員（當選十一回）となり、首
相秘書官、汪兆銘南京政府顧問歴任。二十二年民主黨總裁、二十八年
自由黨へ入り法相、二十九年造船疑獄で辭任。評論家犬養道子はその
長女。

著書 『白樺脚本集』（合著・白樺同人、大正八年八月十五日新潮社）、
『白樺の林』（合著・同、大正八年十一月十日聚英閣）、『南國』（大
正十一年七月十日新潮社「新進作家叢書」）、『家鴨の出世』（大正
十五年十一月十五日春秋社）、『日本小説集・第二集』（昭和二年版）
（合著・文藝家協會編、昭和二年五月十日新潮社）、『東京六月祭』
（昭和四年四月二十五日改造社）、『犬養健集』（昭和四年九月十五
日平凡社「新進傑作小説全集」）、『國會演藝學專始』（昭和九年八月
十日自刊）、『揚子江は今も流れている』（昭和二十五年九月十日又
藝春秋新社）等。